

第1学年 道徳科学習指導案

令和3年10月15日（金）第6校時

- 1 主題名 人間らしい心の営み 内容項目〔B 思いやり、感謝〕
- 2 ねらい 本当の思いやりとは何かを考えさせる活動を通して、他者の状況や立場を推し量りながら、思いやりの心をもって人のために尽くそうとする態度を養う。
教材名 母の誘い（出典 彩の国の道徳 中学校 「自分を見つめて」埼玉県教育委員会）

3 主題設定の理由

（1）ねらいや指導内容について

「思いやりの心」は、自分が他者に能動的に接するときの必要な心の在り方である。他者の立場を尊重しながら、親切にし、いたわり、励ます生き方として現れる。思いやりの心の根底には、人間尊重の精神に基づく人間に対する深い理解と共感がなければならない。

中学生のこの時期は、相手の心や状況までしっかりと理解しようとせず、自分本位で行動してしまう生徒も多い。

しかし私たちは自分の親切な行為や、思いやりの行動が相手から拒絶されたり、こちらが期待する反応がなかったりしたとき（お礼の一言も言われないなど）に、不満や失望を感じることもある。それは実はその思いやり行動が「やってあげている」という自分中心の思いから起きている行為だからである。お礼や自己満足を期待しておこなわれる行為は本当の意味での「思いやり」とは言いがたい。「思いやり」はあくまでも相手のことを中心においた自発的な行為でなければならない。「やってあげる」行為と相手のために自ら「やりたい」行為の違いについて考えさせたい。

「思いやりの心」を育むためには、相手の心や状況を推し量り、想像する力や心が必要である。互いに支え合っていく日常生活の中で、相手や自分を大切に思う人間尊重の精神が大切であり、本当の意味での思いやりの心と態度を育てていきたい。

（2）生徒のこれまでの学習状況及び実態について

本学級は、男子14名、女子17名の31名の学級である。明るく一生懸命で、授業や行事に意欲的に取り組むことが出来る。校外学習を終え、さらにクラスの絆も深まり、休み時間などは友達同士で楽しく話す場面を多く見かける。また、自分の仕事に責任をもって取り組む生徒が多い。そして道徳ではどの生徒も一生懸命授業に参加している。しかし、発問に対して悩み、自分の考えを記入できない生徒もいるため、考える力を伸ばしていく必要もある。

進んで級友の仕事を手伝う生徒もいる中、「やってあげている」気持ちが強く、自分本位に行動している生徒も少なくない。相手を心から大切に思い、相手の気持ちや行動を想像する力を身に付ければ、今後クラスの中においても互いに支え合い大切にしようの気持ちがさらに強くなると考えられる。

事前に思いやりについての「道徳アンケート」を行った。以下がアンケート結果である。

誰かのために思いやりをもって接したことはありますか	相手にしてもらって嬉しかったことはありますか
<ul style="list-style-type: none"> ・荷物を持っていて、頼まれたときに手伝ってあげた ・ものを拾ってあげた ・知らない人のベビーカーを停めた ・友達や先輩を励ました ・友達の準備を待った ・お年寄りに席を譲った ・勉強を教えた ・元気がなさそうな友達に声をかける ・怪我した人を助けてあげた 	<ul style="list-style-type: none"> ・肩もみしてくれた ・褒めてくれた ・分からないところを教えてくれた ・当番活動を代わってくれた ・体調不良時に「大丈夫？」と声をかけてくれた ・ものを借りた ・骨折しているときに友達に助けられた ・先輩から褒められた ・友達から応援してもらった ・家族や友達にお礼を言われたとき ・荷物を持ってくれた

全ての生徒が、他者に思いやりをもって接したことも、誰かに手助けされたこともあることが分かる。しかし、ものの貸し借りなどの、物を通しての優しさの行為を思いやりとして認知している生徒が多い。思いやりの本質に迫るためには、今一度思いやりについて考える必要があることが分かる。本時の学習を通して、「してあげている」「したい」の違いについて考えることで、思いやりの本質に迫りたい。実生活においては、今後体育祭やスキー教室などの大きな行事があるため、友達との関わり方や、相手の立場に立って物事を考える力を養っていきたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、主人公「彩香」が母の「人様のために尽くしなさい」などの思いやりの教を大切に生きてきたが、ボランティアを通じて、本当の思いやりとは何かについて向き合い考える教材である。思いやりについて理解しているが、本質についてしっかり向き合い考える機会は少ない。また、「やってあげている」気持ちで相手の立場を考えることを意識して行動できている生徒は少なく、またそのように行動することは非常に難しいことである。思いやりは、相手の本当の思いをくみ取り想像する力も必要である。主人公「彩香」や、本当の思いやりを問う母親の考えに寄り添いながら、班で気持ちを共有し、真剣に向き合わせ、今一度本当の思いやりとは何かを考えさせ、他者の立場を尊重し、行動に移せる人間を育てていきたい。

4 学習指導過程

段階	学習活動（主な発問）	予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ◇評価の視点
導入	1・アンケートの集計結果を見る。	<ul style="list-style-type: none"> ・友達に感謝している人が多い。 ・もっと思いやりをもって接したい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・以前とったアンケートを掲示し、本時のねらいに意識を向けられるよう

	<p>2 本時の目標を知る。</p>		<p>にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近のクラスでの思いやりのある出来事について教師から提示する。
<p>展 開</p>	<p>3 教材を読んで考えを深める。</p> <p>○教師の範読を聞き、内容を理解する。 (補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・彩香のいいところを挙げていこう。 <p>(1) 母との会話で「心にもやもやしたものが残った」とき、彩香はどんなことを考えていたのだろうか。</p> <p>(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そういう考え方をしていたの」と言った母の気持ちはどんな思いだろう。 <p>(2) 「家に帰ってもそのことばかり考えていました」とあるが、彩香のわりきれない気持ちはどこからきているのだろうか。</p> <p>(補助発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もし、自分が彩香の立場だったら、どのような行動を取るだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内容の中心となる部分や、気になった部分に線を引きながら読む。 ・仕事があったら引き受ける。 ・進んで立候補する。 ・母はもっと褒めてくれると思ったのに、残念な気持ち。 ・自分の考えが悪いのかな、と自分を問いたす気持ち。 ・彩香は本当の思いやりの心をもって接していないことにショックを受けている。 ・これから、本当の思いやりについて学んでほしいという願い。 ・こんなに思いやりをもって接しているのにどうして伝わらないのだろう。 ・どうしたら優しさが伝わるのだろう。 ・私はどうすればよかったのだろう。 ・同じように動けなくなってしまう。 ・おばあさんに聞いてから行動する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公の気持ちの変動に着目させながら範読する。 ・彩香が「してあげている」の気持ちが強く、周りから認められたい気持ちが強いことをおさえる。 ・母の気持ちも考え、本当に母が伝えたかったことは何なのか考えさせる。 ・「思いやり」とは、互いを尊重し、自分の意見の押しつけにならず、相手の立場に立って考え行動することが大切だと気付かせる。 ・思いやりについて分かっているけれども、それを行動にうつす難しさについて考えさせる。

	<p>(3) 「してあげている」「したい」の違いはなんだろう。</p> <p>(4) 本当の思いやりの心とはなんだろうか。</p> <p>(補助発問)</p> <p>・「してあげている」の気持ちは悪いことなのだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・相手が本当にしてほしいことは何かを考えること。 ・自分本位の考えになっているかどうか。 ・相手の立場に立って考えること。 <ul style="list-style-type: none"> ・優しい気持ち自体が大切だけど、上から目線で考えてはいけない。 <ul style="list-style-type: none"> ・自分には難しいことだと思う。 ・思いやりの気持ちは変わらないけど、相手への気持ち次第だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで考えさせ、付箋を使って班内で意見を共有する。班で出た意見はタブレットを使いクラスで共有させる。 ・思いやりの大切さも分かりながら、それを簡単に実行できないもどかしさも理解する。 <p>◇思いやりについて、他の生徒の発言を聞きながら、多面的・多角的に考えているか。</p>
	<p>(5) 今日の学習を通して、今後どのように行動していきたいと思ったか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今までは、やってあげている気持ちが強かったけど、相手のことを考えて行動していこうと思った。 ・思いやりは、相手がいるから成立するので、相手の気持ちを考えることを忘れないで行動していきたいと思った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・記入ができていない生徒には、今までの思いやりをもった行動がどうだったのかなど具体的なエピソードを書くように助言する。 ◇これまでの体験を振り返りながら、自分との関わりで深く考えることができたか。
終末	<p>4. 教師の説話を聞く。</p>	<p>瀬戸内寂聴の言葉</p> <p>「相手が今何を求めているか、何に苦しんでいるかを想像することが思いやりです。その思いやりが愛なのです。お返しを期待しない。感謝の言葉も求めない。それが本当の奉仕です。」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の体育祭に向けて、よりよいクラスのために思いやりの気持ちをどう生かしていくかを考えさせる。

5 他の教育活動との関連

事前指導	アンケートの実施
道徳科	教材名「母の誘い」(本時)
事後指導	学校行事である「体育祭」や「スキー教室」等を通して、友達との関わり方について学び、互いに支え合い大切にしようとする気持ちを育む。
家庭との連携	学級通信で生徒の感想を紹介し、家庭での話題にしてもらう。

6 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考えている様子】

思いやりについて、他の生徒の発言を聞きながら、多面的・多角的に考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

これまでの体験を振り返りながら、自分との関わりで深く考えている。

7 板書計画

<p>・本当の「思いやり」ってなんだろう？ 母の誘い</p> <p>彩香…立候補 優しい 人のために</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">場面絵</div> <p>母…看護師 ボランティア ☆病院でボランティア ⇒こっちの気持ちもわかって 母「そういう考え方…」</p> <p><u>彩香の気持ちは</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかってくれると思っていた ・じゃあどうしたらいいの ・せっかくながらがんばったのに 	<p>☆特別養護老人ホームでボランティア ⇒怖い</p> <p>家に帰ってもそのことばかり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どうすればよかったのかな ・私は間違っていたのかな ・母が言おうとしていたことはなんだったのだろう <p>母「してあげている」「したい」どっちの気持ち？</p> <p>彩香 徐々に晴れていく・・・</p>	<p>「したい」 「してあげている」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人のために ・思いやりが大事 ・相手のことを考えて ・上から目線 <p style="text-align: center;">↓</p> <div style="text-align: center;">  <p>本当の「思いやり」って？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の立場に立つ ・相手が本当にしてほしいことを考える ・自分本位にならない
--	---	---

8 備考 在籍生徒数 男子 14 名 女子 17 名 合計 31 名